

教科書(発行所)	保健体育 (大修館)
教科書以外の教材(発行所)	体育実技書 (学研)

目 標

学習のねらい

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

《体育分野》

1 体づくり運動

自己の体力や生活に応じて、どのような運動をすればいいかを工夫する。

①自己の体に気付く ②自己の体の調子を整える ③仲間と交流する

2 器械運動

自己の能力に応じて、各運動種目の「技がよりよくできる」ことをねらいとし、自己の能力に適した技に挑み、その課題を解決していくことで喜びを味わう。

3 陸上競技

速く走る・遠くへ跳ぶ・高く跳ぶ・遠くへ投げることをねらいとし、自己記録の向上の喜びや仲間と競争する楽しさを味わう。

4 球技

集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、得点を取り合って勝敗を競うことをねらいとし、攻防の作戦を立てて、勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わう。

5 武道

自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、その技能を身につけ、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができるようにする。

6 ダンス

自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、感じを込めて踊ったり、みんなで楽しく踊ったりすることができるようにする。

7 体育に関する知識

各種の運動の特性に応じた学び方や安全の確保の仕方について理解するとともに、自己の生活の中での生かし方を理解する体ほぐしの意義と行い方及び体力の意義と体力の高め方について理解する。また、運動の心身にわたる効果について理解する。

《保健分野》

1 運動やスポーツの効果・学び方・安全

(1) 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について理解すること。

(ア) 運動やスポーツは、身体の発達やその機能の維持、体力の向上などの効果や自信の獲得、ストレスの解消などの心理的效果及びルールやマナーについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できること。

(イ) 運動やスポーツには、特有の技術があり、その学び方には、運動の課題を合理

	的に解決するための一定の方法があること。 (ウ)運動やスポーツを行う際は、その特性や目的、発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ぶなど、健康・安全に留意する必要があること。 (2)運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えること。 (3)運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての学習に積極的に取り組むこと。 2 生活習慣の健康への影響 (1)健康な生活と疾病の予防について理解を深めること。 (ア)生活習慣病などは、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れが主な要因となって起こること。また、生活習慣病の多くは、適切な運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践することによって予防できること。 (イ)喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、これらの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があること。 3 けがの防止と応急手当 (1)傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすること。 (ア)交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生すること。 (イ)交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。 (ウ)自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。 (エ)応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、心肺蘇生法などを行うこと。 (2)傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、資料集・教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第1回考査	なし
		第2回考査	体づくり運動・陸上競技・球技・保健など
		第3回考査	なし
		第4回考査	なし
		年度末考査	陸上競技・球技・ダンス・保健 など
評価の観点 ・評価の方法	・評価の観点は、①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度、の3項目とする。 《体育分野》 ・評価の方法は、自己評価・相互評価・提出されたレポートの内容・運動技能テスト・出席状況等により、総合的に観点別に評価する。 ・毎時間が評価の対象であり、数回の技能テストも行う。 《保健分野》 ・評価の方法は、定期考査、ノート提出、提出されたレポートの内容、出席状況等により、総合的に観点別に評価する。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、 ノートの取り方など)	《体育分野》 ・更衣を早くし、授業には遅刻しない。 ・体調の自己管理をし、体調の悪いときには担当教師に申し出る。 ・忘れ物をしない。 《保健分野》 ・提出物は必ず出す レポート・ノート等の記述内容の評価は大きいので、しっかり考察して提出しましょう。 ・忘れ物をしない。		

年間授業計画表（45分授業）

学期	月	学 習 内 容	時数	学 習 の ポ イ ン ト
前期	4	・体づくり運動(体ほぐしの運動)	6	・自己の体に気付き、仲間と交流する。
	5	・体づくり運動(体力を高める運動)	6	・互いに協力しながら、体力を高める。
	6	・陸上競技(短距離走・リレー)	12	・安全に留意し、基本技術を習得する。
		・運動やスポーツの効果・学び方・安全	4	・互いに協力しながら、手際よく測定できるようにする。
		・球技(男子:バスケットボール)	8	・運動について理解を深める。
	7	(女子:バドミントン)		・安全に留意し、互いに協力しながら、練習・ゲームを行う。
		《第2回考査》		
	8 9	・ダンス(フォークダンス)	6	・互いに協力しながら練習を行う。
				上級生と下級生の交流を深める。
		・球技(ハンドボール)	14	・安全に留意し、互いに協力しながら、練習を行う。
後期		・球技(卓球)		・常に技術習得を意識しながら、練習を行う。
		・生活習慣の健康への影響	6	・安全に留意し、基本技術を習得する。
				・生活の中での生かし方を理解する。
	10	・球技(卓球)	14	・安全に留意し、基本技術を習得する。
	11	・球技(ハンドボール)		・安全に留意し、互いに協力しながら、練習を行う。
	12	・けがの防止と応急手当	10	・常に技術習得を意識しながら、練習を行う。
	1			・生活の中での生かし方を理解する。
		・陸上競技(長距離走)	15	・自分の目標を立て、ペースを設定して安定したタイムで走ることを大きな目標とする。
	2	・球技(男子:ソフトボール)	16	・生涯体育に向けて、自ら進んで体を動かすようにする。
		(女子:ニュースポーツ)		・安全に留意し、互いに協力しながら、練習・ゲームを行う。
後期	3	《年度末考査》		・常に技術習得を意識しながら、練習・ゲームを行う。
				また、チーム内での役割分担を行う。
総時間数			117	体育 98時間 保健 19時間

教 科 名		年間授業時数	学 年
技術・家庭科（技術分野）		39	2
授 業 形 態		指 導 者 名	
一斉授業		木挽屋 菜摘	

教科書（発行所）	技術・家庭 技術分野（開隆堂）
教科書以外の教材（発行所）	技術・家庭ノート（開隆堂）

目 標	生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。		
学習のねらい	B 生物育成の技術 （1）生活や社会を支える生物育成の技術について調べる活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 育成する生物の成長、生態の特性等の原理・法則と、育成環境の調節方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解すること。 イ 技術に込められた問題解決の工夫について考えること。 （2）生活や社会における問題を、生物育成の技術によって解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 安全・適切な栽培又は飼育、検査等ができること。 イ 問題を見いだして課題を設定し、育成環境の調節方法を構想して育成計画を立てるとともに、栽培又は飼育の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること。 （3）これからの社会の発展と生物育成の技術の在り方を考える活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 生活や社会、環境との関わりを踏まえて、技術の概念を理解すること。 イ 技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考えること。 C エネルギー変換の技術 （1）生活や社会を支えるエネルギー変換の技術について調べる活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 電気、運動、熱の特性等の原理・法則と、エネルギーの変換や伝達等に関わる基礎的な技術の仕組み及び保守点検の必要性について理解すること。 イ 技術に込められた問題解決の工夫について考えること。 （2）生活や社会における問題を、エネルギー変換の技術によって解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 安全・適切な製作、実装、点検及び調整等ができること。 イ 問題を見いだして課題を設定し、電気回路又は力学的な機構等を構想して設計を具体化するとともに、製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること。 （3）これからの社会の発展とエネルギー変換の技術の在り方を考える活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 生活や社会、環境との関わりを踏まえて、技術の概念を理解すること。 イ 技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考えること。		
定 期 考 査	出題方針	教科書の内容を中心に、ノート、授業内容、教材プリントなどから出題する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	実施しない
		第2回考査	生物育成の技術
		第3回考査	エネルギー変換の技術・エネルギーの変換と利用
		第4回考査	実施しない
		年度末考査	エネルギー変換の技術 ・エネルギーの変換と利用・機器のしくみと保守点検
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3項目である。 ○具体的な評価は、定期考査、授業中での作品、「技術とわたしたちの生活 1 技術」、「情報とわたしたちの生活 2 情報」、教材プリント、レポートなどを適正に活用して総合的に行う。また必要に応じて自己評価も取り入れる。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	技術は、実践的・体験的な学習活動を通して、生物育成や情報の基礎的な知識と技能を習得するとともに、生物育成や情報の学習を通して、将来の自分の夢を実現するときにいかされる技術的素養を身に付ける学習です。技術が果たす役割について理解を深め、それらを適切に活用する能力と態度を身に付けることが大切です。学習を通して、将来の自分の夢を実現するときにいかされる技術的素養を身に付けましょう。		

年 間 授 業 計 画 表 (45分授業)

学期	月	学習内容	時数	授業のポイント
前 期	4	○生物育成の技術 ●わたしたちの生活と生物育成 ・生物育成について知る。	5	・生物育成の意味とその目的、わたしたちの生活における役割を知る。 ・スプラウトの観察を通して、生物育成について知る。 ・作物の育成に適切な手入れのしかたを理解し、適切な管理ができる。・ベ
	5	・作物や家畜などの特性と生物育成技術を知る。 ・生物育成のサイクルを知る。 ●栽培計画 ・栽培ごよみを知る。・栽培計画を立てる。 ・播種、育苗について知る。 ・環境要因を知る。・育成の規則性と技術 ・土づくり、肥料について知る。 ・収穫の方法と保存について知る。 《第2回考査》	6	・作物と地域による栽培時間のちがいを知り、栽培に見通しをもつ。 ・育成する生物の特性が技術と深くかかわっていることを知る。 ・わたしたちの生活に有効利用されている生物育成の技術の流れを知る。 ・生物の育成に適する条件を理解する。 ・作物の特性と育成の規則性を理解する。 ・作物の収穫と利用方法を理解できる。
	6	○エネルギー変換の技術	3	・さまざまな機器を通してエネルギーとエネルギー変換を理解する。
	7	●エネルギー資源の利用	5	・エネルギー資源の種類、利用方法を理解する。
	9	・エネルギーとエネルギー変換 ・燃料を利用した技術 ・発電と送電のしくみ ・エネルギー変換と効率		・エネルギーを有効に活用するためには、エネルギー変換効率を高める必要があることを知る。 ・電気エネルギーの変換のしくみを理解し、適切な利用方法を知る。 ・電気機器の点検について知り、安全な利用方法について理解する。 ・電気機器の手入れや点検について知り、事故防止の具体的な方法を身に付ける。
	10	●電気の利用 ・電気エネルギーの特徴	4	・はんだごてを用いて、安全・適切な製作、実装、点検及び調整等ができる。
	11	●機器の安全な利用と保守点検 ・電気機器の構造 ・電気機器の安全な利用 ・電気機器の保守点検 ●エネルギー変換を利用した問題解決	6	・運動の伝達について、かみ合い・摩擦、リンク機構、スライダクランク機構、カム機構とその仕組みを理解する。 ・動力伝達のしくみについて、種類や使用例を知る。 ・速度伝達比、トルクと馬力について知る。 ・リンク機構、カム機構について種類や使用例を知る。
	12	●運動エネルギーの伝達 ・力の伝達 ・動きを変化させくみ	3	・これからの社会の発展とエネルギー変換の技術の在り方を考える。
	1	・力や運動を保存するしくみ 《学年末考査》	5	・生活や社会、環境との関わりを踏まえて、技術の概念を理解する。 ・技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考える。
	2	●これからのエネルギー変換の技術 《年度末考査》	2	
後 期	3			
		総 時 間 数	39	

教科名	年間授業時数	学年
技術・家庭科（家庭分野）	39	2
授業形態	指導者名	
前期：一斉授業 後期：一斉授業	小山有紀	

教科書（発行所）	技術・家庭 家庭分野（開隆堂）
教科書以外の教材（発行所）	中学校技術・家庭科用 技・家ノート 家庭分野（開隆堂）

目 標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。 (3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。		
学 習 の ね ら い	A 家族・家庭生活 (3) 家族・家庭や地域との関わり ア 次のような知識を身に付けること。 (ア) 家族の互いの立場や役割が分かり、協力することによって家族関係をよりよくできることについて理解すること。 (イ) 家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、高齢者など地域の人々と協働する必要があることと介護など高齢者との関わり方について理解すること。 イ 家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、工夫すること。 B 衣食住の生活（衣・住生活） (4) 衣服の選択と手入れ ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解すること。 (イ) 衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し、適切にできること。 イ 衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方を考え、工夫すること。 (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作 ア 製作する物に適した材料や縫い方について理解し、用具を安全に取り扱い、製作が適切にできること。 イ 資源や環境に配慮し、生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫すること。 (6) 住居の機能と安全な住まい方 ア 次のような知識を身に付けること。 (ア) 家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解すること。 (イ) 家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解すること。 イ 家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫すること。 C 消費生活 (1) 金銭の管理と購入 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解すること。 (イ) 売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできること。 イ 物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、工夫すること。 (2) 消費者の権利と責任 ア 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解すること。 イ 身近な消費生活について、自立した消費者としての責任ある消費行動を考え、工夫すること。		
定期考查	出題方針	教科書とノートの内容を中心にプリント、ワークシートからも出題する。	
	範 囲 (予定)	第2回考查	・衣服の選択と手入れ ・生活を豊かにするための布を用いた製作
		年度末考查	・住居の機能と安全な住まい方 ・金銭の管理と購入 ・消費者の権利と責任
評価の観点・ 評価の方法	・評価の観点は家庭科の「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3点とする。 ・授業への取り組み方、発表・プレゼン・レポート、ワークシートの記述等から総合的に評価する。		
先生からのアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートのとり方など)	・忘れ物をしない。・時間を守る。・人の話を集中して聞く。 ・課題をきちんと行い提出する。・学習内容を家庭で実践する。 ・自らの家庭生活を見つめ、家庭生活に対する課題や考えをもつ。		

年 間 授 業 計 画 表 (45分授業)

学期	月	学 習 内 容	時数	学 習 の ポ イ ン ト
前期	4	○目的に応じた衣服の選択 ①衣服で伝わるメッセージ ②自分らしくコーディネート ③つなげよう和服の文化 ④上手な衣服の選択	1 1 1 2	・衣服の社会生活上のはたらきがわかる。 ・自分らしい着方を工夫することができる。 ・和服の文化に関心を持ち、和服の着方を知る。 ・自分の衣服計画が立てられる。 ・既製服を選ぶポイントがわかる。
	5	○日常着の手入れと保管 ①まかせて衣服の手入れ ②布の繊維に応じた手入れ	1 2	・衣服の状態に応じた手入れの必要性がわかり、適切な手入れができる。 ・取扱い表示の意味を理解し、衣服の素材に適した手入れの方法を選択できる。 ・衣服の素材に合った洗剤を選び、適切な量を使用できる。
	6	③めざそう洗濯名人 ④補修や収納・保管	1 2	・衣服の傷みの状況に合わせた方法で補修ができる。 ・衣服に合わせた方法でアイロンかけや収納・保管を適切に行うことができる。
	7	○生活を豊かにするものの製作 ①製作の基礎・基本	2	・布を用いて生活を豊かにするものを考える。
		〈第2回考査〉		
	8 9	②布による作品で生活を演出	7	・製作の計画を立て、手縫いやミシン縫いで生活を豊かにするものをつくる。
後期	10	○生活を豊かにするものの製作 ②布による作品で生活を演出	2	
		○住まいのはたらきとこころよさ ①住まいのはたらき ②住まいの空間	1 1	・住まいの基本的な役割について理解する。 ・日本の伝統的な住まいの特徴を知る。
	11	○安全な住まいで安心な暮らし ①家庭内事故への備え ②災害への備え	2 2	・家庭内の事故の種類と、その原因を知る。 ・幼児や高齢者の安全を考えた住まい方について工夫する ・地域さまざまな災害に備えて、室内を安全に整備する必要とその方法について理解する。
	12	○持続可能な住生活 持続可能な住生活をめざして	3	・持続可能な社会の実現に向けて、さまざまな住まいと住まい方の工夫があることを知る。
		○家庭生活と消費 ①消費生活のしくみ ②家庭生活における収入と支出	1 1	・物資とサービスの特徴がわかる。 ・消費生活のしくみがわかる。 ・収支のバランスをはかり、計画的に金銭管理する必要があることがわかる。
	1	○購入・支払いと生活 ①いろいろな購入方法 ②購入前に知っておくこと ③いろいろな支払い方法	1 1 1	・店舗販売と無店舗販売の特徴がわかる。 ・売買契約について問題発生の原因や予防方法を含め、理解する。 ・即時払い、前払い、後払いの特徴を理解し、利点と問題点を理解する。
	2	④情報を活用した上手な購入	1	・生活情報の収集や活用のしかたを理解し、目的に合った商品を選ぶことができる。
		〈年度末考査〉		
		○自分の成長と家族・家庭生活 ③家庭を支える社会 ④中学生にとっての家族	1 1	・自分や家族の生活は家庭内や家庭外の活動が支えていることに気づく。 ・家族には互いの立場や役割があり、協力することで家族関係をよりよくできることを理解する。
		総 時 間 数	39	

教 科 名		年間授業時数	学 年
英 語 (英語・英語C)		195	2
授業形態	指導者名		
習熟度別による少人数授業および一斉授業	吉本亜希穂・下崎麻衣子・高木由貴・Andrew Proebstle・Kevin Phiefer		

教科書 (発行所)	NEW HORIZON English Course2 (東京書籍)
教科書以外の教材 (発行所)	・実力練成テキスト2 (文理) ・中高一貫テキストNEW TREASURE Stage1・2 (Z会出版) ・NEW TREASURE 文法問題集1・2 (Z会出版) ・タスク型読解問題集 (新学社) ・Listening trial Stage1 (文英堂)

目 標	外国語 (英語) によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと (やりとり) (発表)」、「書くこと」の言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
学習のねらい	・言語の4技能5領域 (「聞くこと」「話すこと (やりとり) (発表)」「読むこと」「書くこと」) をバランスよく学習する。 ・200語程度のまとまった英語を聞いて、その内容を理解することができる。 ・質問・応答・交渉・言い換え・論理的な自己表現などができる。 ・300語程度のまとまった英語を読んで、その内容を理解することができる。 ・基本的な文法・語いを使って、200語程度のまとまった英語を書くことができる。		
定期考査	出題方針	中高一貫テキストNEW TREASURE の内容を中心に、検定教科書にも触れながら、副教材、問題集、教材プリントなどから出題する。 Listening Comprehensionは必ず行う方針である。	
	範 囲 (予定)	2回考査	中高一貫テキストStage1 Lesson10、11、12 検定教科書内容
		3回考査	中高一貫テキストStage1 Lesson12、Stage2 Lesson1、2、3 検定教科書内容
		4回考査	中高一貫テキストStage2 Lesson3、4 検定教科書内容
		年度末考査	中高一貫テキストStage2 Lesson4、5
評価の観点・評価の方法	評価の観点は、知識・技能、思考・判断・表現、表現の能力、主体的に学習に取り組む態度の3項目とする。 具体的な評価は、定期考査を中心に、授業ファイルの作成と提出した内容、小テスト、その他の提出物を含む課題、授業への取り組み状況等を適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノート取り方など)	中学2年生では、習熟度別 (希望による) 少人数授業を展開します。標準コースではこれまでの学習と同様に、基礎・基本の定着を目指した演習や言語活動などを通して学習を進めていきます。発展コースではより細かな文法指導やその文法を駆使した様々な発展的な言語活動などを通して、言語使用場面に合わせて学習したことを実践的なものにまで高めていきます。 どちらのコースにも共通して大切なことは、①予習②授業③復習のサイクルを確立することです。家庭学習には1時間以上はかけ、授業に集中して取り組むことが大切です。まず、①予習では、新出単語を調べ、どんなことを学ぶのか事前に文法問題集に取り組み、この段階で疑問に思ったことを、授業で確認しましょう。それでも不明な点は先生に確認しましょう。②授業では言語活動をしているときは音を大切にしっかりと発音することです。五感をフル活用しましょう。活動の1つ1つにねらいを持ち、けじめをつけて学習しましょう。また、ペアなどによる学び合いの姿勢も大切に、お互いに高め合っていきましょう。その日学習したことは③必ず復習します。音を聞いたり、音読したり、書く練習をするなどの努力を欠かさず行いましょう。この毎日の積み重ねが定着につながります。ALTの先生との授業においても積極的に学習したことをすぐに使うことが大切です。週5時間の英語の授業と毎日の家庭学習 (1時間以上) をフル活用して身につけていきましょう。No Pain, No Gain. (努力なくして成功なし) 一緒にがんばりましょう。		

年間授業計画表(45分授業)

期	月	学習内容				時数
前期	4	Unit 0 My Spring Vacation Unit 1 A trip to Singapore Unit 2 Food Travel around the World	- 一般動詞の過去形、canの文 - 疑問詞 - be going to - 未来形 will - 接続詞 - SVOO、SVOC	前学年の復習 Lesson 10 Let's Drink and Eat Water Bubbles Lesson 11 What can we do for the world?	- 未来を表す表現 (be going to~) - いろいろな助動詞 (will / can / may / must) - There is (are) ~の文 - 数や量の多少を表す表現	19
	5					19
	6	Unit 3 My Future Job Stage Activity 1 A Message to Myself in the Future	- 不定詞(形容詞的用法、副詞的用法と名詞的用法) - 好きなことや得意なことについて話し合い、自分に合うと思う仕事について書く	Lesson 12 Languages in India	比較 better、the best (原級・比較級・最上級)	19
	7	《 2回考査 》		《 2回考査 》		
	8	Let's Read 1 History of Clocks	速読(説明文)	復習		5
	9	Unit 4 Homestay in the United States Unit 5 Universal Design	- have to~/don't have to~ - 助動詞 will/must/must not - how to S+V - sure that S+V	Lesson 1 14-year-olds around the the World Lesson 2 The impact of Non-Native Species	- 命令文、and / or.... - 接続詞when - 接続詞that - 接続詞if / 理由、譲歩を表す接続詞	19
	10	Unit 6 Research Your Topic	- 比較級 - 最上級 - as~as . . .	Lesson 3 The World Favorite Children's Author	文構造 (SV/SVC/SVO)	19
	11	《 3回考査 》		《 3回考査 》		
	12	Stage Activity 2 Research and Presentation	クラスで人気のあるものを調べて、その結果を発表する	Lesson 4 Takashi's Speech about the Sanshin	不定詞 (名詞用法、副詞用法、形容詞用法)	19
後期	1	《 4回考査 》		《 4回考査 》		
	2	[冬季休業中]				
	3	Let's Read 2 A Glass of Milk Unit 7 World Heritage Sites Stage Activity 3 My favorite Place in Our town	- 速読(物語文) - 受動態 - 自分の町のおすすめの場所について書き、相手にその場所の特徴や良い点を伝える	Lesson 5 Disney and Ghibli Fascinate the World	- 動名詞 - 不定詞と動名詞	19
	4	《 年度末考査 》		《 年度末考査 》		19
	5	Let's Read 3 Pictures and Our Beautiful Planet	- 私の好きなこと・もの - 速読(伝記)	Lesson 6 Forests in Sumatra	受け身形	19
《 スプリングチャレンジ 》						
総 時 間 数						195

第2学年 道徳年間指導計画

学校の教育目標			教科書 検定教科書「自分を考える」
科学的思考力と創造力を身に付け、21世紀の社会を各分野で主体的に担っていくことができる生徒の育成 幅広い知識と国際的な感覚を身に付け、国際社会で活躍できる知的バランスのとれた生徒の育成 豊かな人間性を持ち、自分を律し他を尊重しながら個性を伸長する意欲ある生徒の育成			
学年の重点項目			
自らのよさを伸ばすとともに他者の立場を尊重し、ともに高める態度を育てる。			

月	主題名	内容項目	資料名	ねらい
4	オリエンテーション		「道徳」の時間のオリエンテーション	道徳の時間について考え、意義と重要性を理解し今後の学習を通してよりよく生きていこうとする態度を育てる。
	自分を輝かせる	A-(3)	虎	虎の役にかけた八幡の心の変化と、舞台後の涙のわけについて考えることを通して、自分らしさを発揮することのよさに気づき、個性を伸ばして充実した生き方を追求していこうとする道徳的実践意欲を培う。
	本当のコミュニケーション	B-(7)	いつでも・どこでも・誰とでも	レストランの出来事における「私」の問題とその解決について考えることを通して、礼儀の根底にある人間尊重の精神の大切さに気づき、時と場に応じた適切な言動で、他者愛する心を伝えていこうとする道徳的判断力を高める。
	自然の雄大さや悠久さ	D-(20)	樹齢七千年の杉	縄文杉の前に心動かされる筆者の思いを共感的に理解することを通して、人間の力を越えた自然の雄大さや悠久さに気づき、畏敬の念をもって自然を愛する道徳的心情を育む。
5	誠実に責任をもつ	A-(1)	ジョイス	誤審の翌日も球審を務めようとするジョイスに対する、ガララーガやタイガースの監督の心情を共感的に理解することを通して、誠実な生き方のよさに気づき、自律的な行為の結果に責任をもち、人間としての誇りを大切にす道徳的心情を育む。
	新しいものを生み出す	A-(5)	ガストロカメラ	多くの困難と失敗を乗り越えて、胃カメラという未知のアイデアを実現させた杉浦睦夫、宇治達朗らを支えていた思いについて考えることを通して、真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出していこうとする道徳的実践意欲を培う。
	相互理解の大切さ	B-(9)	野生の猛禽を守るために	一人のハンターとの出会いから、筆者が気付いたことについて考えることを通して、相互理解を図ることの大切さに気づき、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに健康で安全な生活を送ろうとする道徳的実践意欲を育む。
	節度、節制	A-(2)	これは駄目？ これも駄目？	節度や節制に関わる具体的な例について、自分の判断の基準を見つめ、話し合うことを通して、節度を守り、節制に心がけて、心身ともに健康で安全な生活を送ろうとする道徳的実践意欲を高める。
6	生きることの意味	D-(19)	燃え盛る炎	難病に向き合い生き抜いた石川正一君の姿から、人が「生きる」ということについて考えることを通して、かけがえのない生命を尊び、限りある人生を懸命に生きていこうとする道徳的実践意欲を養う。
	いじめの醜さ	C-(11)	君、想像したことがある？	いじめの卑劣さを訴える奉命風花さんの主張を共感的に理解することを通して、いじめをする人間の醜さに気づき、自分の弱さに打ち勝って、差別や偏見、いじめのない社会の実現に努める道徳的実践意欲を養う。
	高い目標に挑戦する生き方	A-(4)	「キング」と呼ばれる理由 ― 三浦 知良 ―	ワールドカップ出場を目指し、その夢が破れてもおなサッカーを続ける三浦知良選手の生き方について考えることを通して、高い目標に挑戦していくことの素晴らしさに気づき、困難や失敗に直面しても、希望や勇気を失わずに努力を続けていこうとする道徳的実践意欲を培う。
	感謝の心	B-(6)	ありがトオヨ	加藤だいさん、橋本公男さん夫妻、加藤はつ江さんの心の交流から、感謝の心のよさや大切さについて考えることを通して、人間愛の精神を深め、人と人との支え合いを可能にする思いやりや感謝の心を大切にす道徳的心情を育む。
7	郷土に受け継がれた伝統や文化	C-(16)	相馬野馬追の季節	東日本大震災で大きな被害を受けながら、葛藤を乗り越えて相馬野馬追を開催した相馬地方の人々の思いについて考えることを通して、郷土に受け継がれた伝統文化のよさや大切さに気づき、地域社会の一員として郷土の伝統と文化を大切にしていこうとする道徳的実践意欲を培う。
	自己を輝かせる集団	C-(15)	明かりの下燭台	チームの勝利のために献身し、マネージャーに徹した鈴木恵美子さんの生き方について考えることを通して、集団における自分の役割と責任を自覚し、集団生活の充実を努めていこうとする道徳的実践意欲を培う。
9	社会の規律を守る	C-(10)	仏の銀蔵	「お天道様が見てござる」と借金を返そうとする人々の姿から、銀蔵が気付いたことについて考えることを通して、社会の規律を守ろうとする規範意識の大切さに気づき、自他の権利を大切に、義務を果たしていこうとする道徳的実践意欲を高める。
	真の友情	B-(8)	嵐のあとに	嵐の漁を経て、明夫とがっちりと手を握り合う勇太の心の変化について考えることを通して、心から信頼し合うことの大切さに気づき、相互に変わらない信頼と相手に対する敬愛の念に基づく真の友情を育んでいこうとする道徳的実践意欲を培う。
	自らを律し、誠実に実行する	A-(1)	小さなこと	小さい自分のしつけを続けている筆者の生き方について考えることを通して、自らを律して誠実に実行していくことのよさや大切さに気づき、自らの規範意識を高め、自律的に生きていこうとする道徳的実践意欲を培う。
	人間の素晴らしさ	D-(22)	ネパールのビール	チェトリが帰ってくるまでの筆者の心の動きを共感的に理解することを通して、人を信じ切ることのできない弱さとそれを乗り越えたいと願う気高さに気づき、人間としての誇りと深い人間愛を大切に、生きる喜びを見出していこうとする道徳的実践意欲を育む。
10	仕事への誇り	C-(13)	加奈子の職場体験	カットを進める安田さんの背中を見つめる加奈子の思いについて考えることを通して、働くことの厳しさや仕事への誇りに気づき、勤労の尊厳や意義を理解して、自分の将来の生き方を考えていこうとする道徳的実践意欲を培う。
	家族の深い愛情	C-(14)	尊い玉子	「私」の話を聞いた家の主人の思いについて考えることを通して、家族の無私な愛情の尊さに気づき、自らの健やかな成長と幸福を願う家族への感謝と敬愛の念を深める道徳的実践意欲を育む。
	人間の強さ、気高さへの感動	D-(21)	人間であることの美しさ	アンデルセン選手の姿に「人間だけが表現しうる美しさ」を感じた筆者の心情について考えることを通して、人間の強さ、気高さに感動する心に気づき、自らの感動を大切にす道徳的実践意欲を育む。
	社会の規範を守る	C-(10)	傘の下	自分の都合で他人の傘を持ち帰り、元に戻した「僕」の行為の問題について考えることを通して、公徳を重んじ、社会の規範を守ることの大切さに気づき、自他の権利を大切に、義務を果たして規律ある社会の実現に努める道徳的実践意欲を養う。
11	責任ある行動	A-(1)	お前のカワウソウがさびしがっているぞ	父の言葉から筆者が気付いたことについて考えることを通して、責任ある行動の大切さに気づき、自主的によく考えて判断し、誠実に実行して、結果に責任をもつ道徳的実践意欲を高める。
	正義を重んじる心	C-(11)	路上に散った正義感	社説と投書の意見から、よりよい社会の在り方について考えることを通して、社会生活における正義の大切さに気づき、正義と公正さを重んじ、不正を憎み、不正な言動を断固として許さない社会の実現に努める道徳的実践意欲を養う。
	生きるということ	D-(19)	天使の舞い降りた朝	母の最期のメッセージを受け止め、歌で生きていくと決めた「僕」の思いについて考えることを通して、「生きる」ということの多面性に気づき、限りある自分の人生を懸命に生きていこうとする道徳的実践意欲を培う。
	気高く生きようとする心	D-(22)	タッチアウト	自分の過失を認めたことについて、良心の呵責を感じ続ける「僕」の思いについて考えることを通して、人間のもつ気高く生きようとする心に気づき、自らの弱さや醜さを克服して、よりよく生きようとする道徳的実践意欲を育む。
12	思いやりの心	B-(6)	最後の年越しそば	最後の帰宅をやめて、お年寄りに年越しそばを振る舞う父の生き方について考えることを通して、思いやりの心の大切さに気づき、温かい人間愛の精神をもって、人と人との支え合いを大切にす道徳的実践意欲を育む。
	家族への敬愛	C-(14)	一冊のノート	ノートにつづられた祖母の思いを知り、祖母と並んで草取りをする「僕」の心の動きについて考えることを通して、家族を敬愛し、家庭の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築こうとする道徳的実践意欲を養う。
	人と国との関わり	C-(17)	国	二つの祖国をもつ王貞治さんの考えから、人と国との関わりについて考えることを通して、日本に生きる者としての自覚をもって、国家及び社会の形成者としてその発展を願う道徳的実践意欲を育む。
1	夢や目標に向かって	A-(4)	本物の将棋指し ― 村山 聖 ―	病を抱えながらも、将棋に一生を捧げた村山聖さんの生き方について考えることを通して、夢や目標に向かって生きることの大切さに気づき、困難や失敗を恐れず、自らの夢や目標に向かって努力していこうとする道徳的実践意欲を培う。
	ともに生きる社会	C-(12)	迷惑とは何ぞ	映画の登場人物の思いを共感的に理解し、筆者の主張について考えることを通して、社会連帯の大切さに気づき、社会に暮らす人々と互いに支え合い、ともによく生きていこうとする道徳的実践意欲を養う。
	信頼と敬愛の念	B-(8)	アイツとセントバレンタインデー	真一と真樹それぞれの行動について話し合い、二人のよりよい関係について考えることを通して、異性間においても相手と理解し合うことの大切さに気づき、信頼と敬愛の念をもってよりよい人間関係を築いていこうとする道徳的実践意欲を培う。
2	人間として誇りある生き方	D-(22)	足袋の季節	取り返しのつかない過ちを悔いる筆者の心情について考えることを通して、人間の弱さや醜さとそれを克服したいと願う心に気づき、自分に恥じない、人間として誇りある生き方を追求する道徳的実践意欲を養う。
	深い人間愛	C-(18)	最も悲しむべきことは、病めることでも貧しいことでもなく	誰もが人間らしい生活を送れるように尽力したマザー・テレサの生き方について考えることを通して、世界中の人々と協働し、互いに尊重し合いながら、国際平和と人類の幸福に寄与する道徳的実践意欲を培う。
	思いやりの温かさ	B-(6)	地図のある手紙	雪深い沼の原の墓地に一郎の手紙を配達し、墓前で代読する源さんの思いを共感的に理解することを通して、思いやりの心の温かさや、人と人をつなぐ思いやりの心を大切にす道徳的実践意欲を育む。
	命の選択	D-(19)	看取りの医者	延命治療を希望しない桑田さんと、彼を支えようとする筆者の思いについて考えることを通して、人間としての尊厳をもって生きることの大切さに気づき、生命の尊厳についての理解を基に、自己の生き方を考え続けていこうとする道徳的実践意欲を培う。
3	節度・節制	A-(2)	情報機器と私たちの生活を考える	情報のルールを遵守し、確実に義務を果たすことで、よりよい社会をつくらうとする道徳的実践意欲を培う。
	国際理解・国際貢献	C-(18)	持続可能な社会を考える	どの国の人々も同じ人間として尊重し、世界平和と人類の幸福に貢献しようとする道徳的実践意欲を育成する。
	1年間の振り返り		この一年間の自分を振り返り今後を考える	

教 科 名		年間授業時数	学 年
サイエンス		39	2
授 業 形 態		指 導 者 名	
分割授業（1学級を2講座）		奥野 晃司 松末 昌樹 武下 晃慎 木挽屋菜摘 岡田 紘典	

目 標	科学が社会生活において果たしている役割に目を向け、実験・観察・数学的活動を通じて、科学的に調べる能力と態度を育てる。さらに、一人一人が自分の考えについて他者と討論することによって、探究すること、説明をすること、根拠付けをすることなど問題の解決や探究活動に必要なスキルを身に付け、学んだ知識と組み合わせて問題解決的な学習を取り入れることにより、科学的思考力や創造力を養う。
学習のねらい	①論理的思考力を構成する様々な推論形式（ピアジェの形式的思考操作）を強化することによって、認知能力の促進・加速を図る。 ②グループやクラス全体の議論を通して十分な経験と反省をさせ、批判的思考、複眼的思考、分析的思考操作の方法を身に付ける。 ③各思考操作を、各作業を通じてその都度直接に習得させることを目的としているのではない。2年間の授業を通じて、形式的操作一般の能力の発達を加速・促進させるのがねらいである。
評価の観点	①課題を解決するために実証的、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりして問題解決に当たることができる。 ②形式的思考操作ができる。 ③他者の意見を論理的な思考によって判断し、その意見に対する自分の考えを持つことができる。 ④自分の意見を適切にまとめ、効果的な発表ができる。
先生からアドバイス （授業の受け方、ノート の取り方など）	・授業の結論を覚えたりする必要はありません。プリントは友達と討論するためのメモに過ぎませんので、その時間にしっかりと考えて自分の意見を述べるようにしましょう。 ・先生と対話したり、友だちと討議をしたりして考えを深めるという体験をしましょう。 ・グローバルで学習している言語技術の手法を活用して、意見が言えたり、文章が書けたりできるようになりましょう。

年 間 授 業 計 画 表 (45分授業)

学期	月	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4	【組み合わせ】選択肢 (15)	2	・すべての場合の数え上げを行う。
	5	【変数】相互作用 (16)	2	・酵母菌、鉄さびについての実験を通して、二つの「入力変数」が合わさって「結果の変数」が大きくなるような現象について考える。
		【蓋然性】コインを回す (17)	2	・コインの表が連続して出る頻度と試行回数との関係を調べ、確率的現象の振る舞いを知る。
	6	【蓋然性】紅茶の味見 (18)	2	・特殊な能力を持つ人がいると仮定して、5回のうち何回当たればその人の能力を信じることができるかを考える。
	7	【相関性】わらじ虫の行動 (19)	1	・状況の違う4か所を設定し、わらじ虫がどこに最もよく移動するかを調べ、得られたデータから考察を行う。
		【相関性】処理と効果 (20)	1	・相関関係が何を意味するかを示す例を提示し、相関関係を理解することは確率を理解することに依存することを体験させる。
		【蓋然性】サンプリング：池の中の魚 (21)	1	・標本抽出の数量的検討を比と割合に関係づけて理解する。
	8	【蓋然性】サイコロを投げる (22)	1	・確率の最後の活動としてサイコロを用いて確率の概念をまとめる。
	9	【形式的モデル】物質の状態・溶液・化学変化 (23・24・25)	2	・観察したことをモデル化する。
		【複合的な変数】圧力・浮かぶ・沈む (26・27)	2	・複数の変数に関係して複合的な変数があることを確認し、複合した変数の使い方を理解する。
後 期	10	【平衡】丘を登り、谷を下る (28)	2	・平衡を保つための条件を探る。
		【複合的な変数】ダイバー (29)	1	・密度の概念を導入して複合的な変数について再度考察を行う。
		【平衡】つりあいを取り戻す (30)	1	・てんびんの平衡を保つための条件を整理する。
	11	課題研究について オリエンテーション	(19) 1	
	12	課題研究の進め方 文献調査について	1 2	
		論文講読	2	
	1	ゼミを決めについて テーマ設定、検討	2 8	
	2	課題研究発表会参加	2	・課題研究発表会に参加し、質問やディスカッションを行う。
	3	テーマ設定、検討	1	
		総 時 間 数	39	